



第 69 回実技セミナー in 平塚

開催報告

開催日時：平成 30 年 8 月 25 日（土）13 時～17 時まで

開催場所：湘南平塚看護専門学校

主催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会

共催：湘南平塚看護専門学校

後援：渡辺商事株式会社 株式会社大塚製薬工場

開催目的

包括的な食支援に関する知識や技術を得るためにベッドサイドスクリーニング評価の方法の理解とベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法の理解をするために講義・実時演習を通して、指導をおこないます。また、自施設において、演習技術を実施に繋げることができることを目的として指導をおこないます。

～KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧～

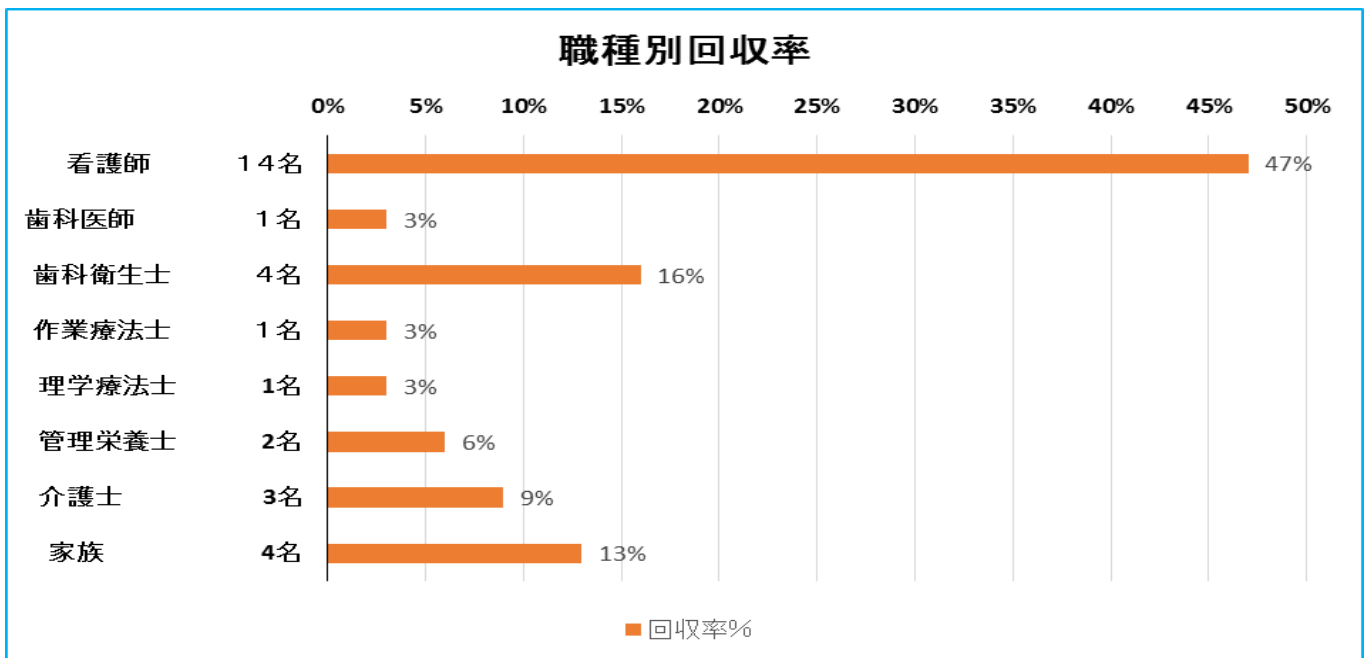
<敬称略>

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
金 志純	社会福祉法人 鶴風会 東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
山下ゆかり	医療法人社団 永研会 ちとせデンタルクリニック	歯科衛生士 KTSM 実技認定者
剣持 君代	公益社団法人 群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
大谷 愛子	仙川の杜デンタルクリニック	歯科医師 KTSM 実技認定者
齋 健太郎	ソフィア総合ナースステーション城南	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
佐藤 作喜子	JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者

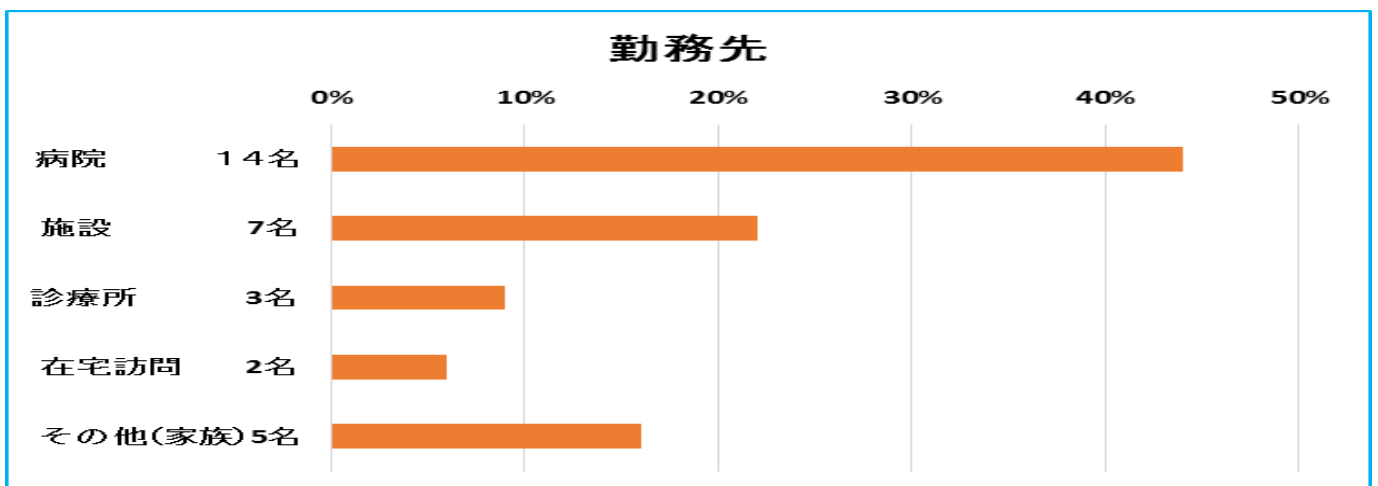
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
石井 洋子	JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	管理栄養士
篠原 健太	JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	作業療法士
中野 裕子	湘南平塚看護専門学校	学校教員 看護師
前場 和栄	湘南平塚看護専門学校	学校教員 看護師
志村 央子	湘南平塚看護専門学校	学校教員 看護師
小林 幸子	湘南平塚看護専門学校	学校教員 看護師
堀口 弥生	湘南平塚看護専門学校	学校教員 看護師
西川 淳子	湘南平塚看護専門学校	学校教員 看護師
水垣 麗	湘南平塚看護専門学校	学校教員 看護師

アンケート集計結果（参加者名 50 回収数 30 名）

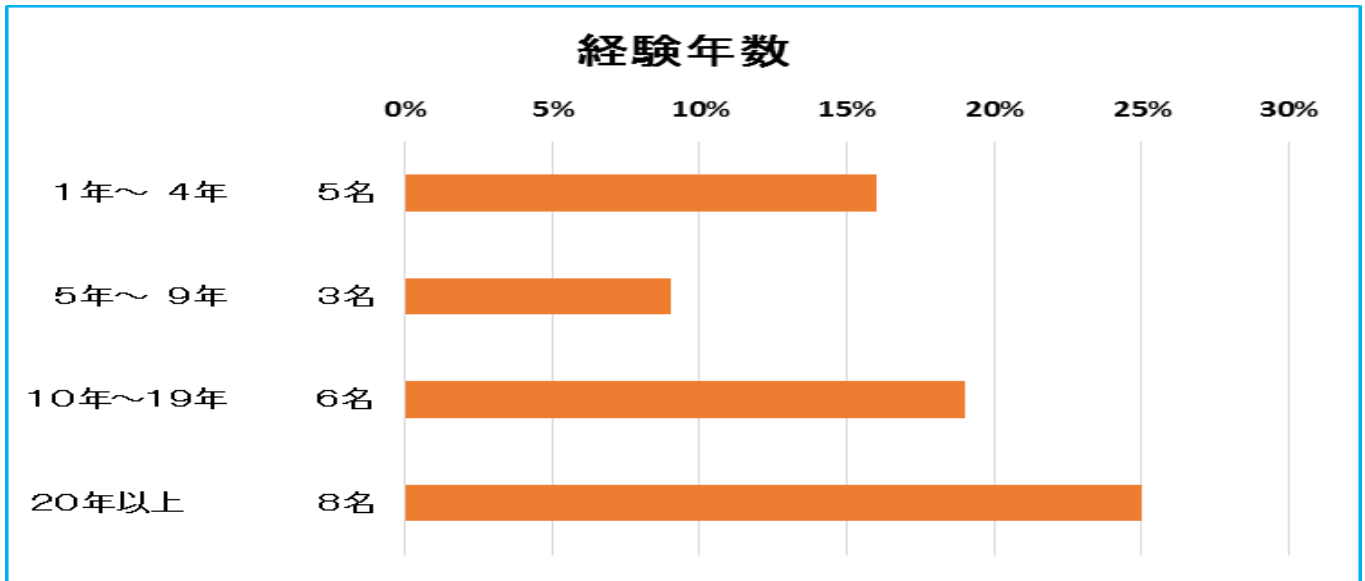
【職種別回収率】



【勤務施設】



【経験年数】



【参加前と参加後で考え方がどのように変化しましたか？】

<p>患者さんが食事を食べるセッティングの方法がわかった。食事介助をした時に患者さんが十分に食事を食べられるようにせず、むせたからといってすぐに食事をやめていた。しかし不足しているところを補い持つてる力を活かせるよう介助した上で嚥下の評価をしたい、と思った。</p>
<p>今回のセミナーで今年5回小山先生にお会いしました。今回はまさかの私の普段のスプーン使いを指摘されました。自分がまず正しく使うことが大切だと思いました。</p>
<p>食事介助の奥深さを実感しました。ポジショニングができていなければ、患者さんの負担や危険につながるとわかりました。正しくできると、安定していて気持ち良さを感じ、できていなかった時の患者さんの気持ち悪さを体験して、よくわかりました。嚥下評価のテクニックもたくさんポイントがあり、繰り返して技術を磨く必要があると感じました。観察しながら、介助することの難しさを感じました。</p>
<p>姿勢において角度設定。わずかでも角度の違いで、こんなにも飲み込みづらい、姿勢がづらいとは思いませんでした。</p>
<p>セミナー参加前にも、今回の会場となっていた学校の学内演習で参加をさせて頂いていました。その際にもKTバランスチャートについての学習などを行いました。口から食べる事はその人らしく生きる事に繋がる事を学ぶ事ができました。今回参加をして、再度自分達が経口摂取を維持していくようにする為のアプローチが必要であるという事を認識しました。特に現在所属をしている病棟では、摂食嚥下障害のある患者が多く、所属長が経管栄養から経口摂取へ移行し在宅復帰を目指すことに力を入れています。経口摂取へ移行したいという所属長の思いが、今回参加をした事で理解する事もできました。</p>
<p>考え方に変化はなく、適切なアセスメントと、それに沿った患者さんの食べる環境を整えることがまず大切だと感じました。</p>
<p>これまでは、むせや誤嚥なく食事介助できるようになりたいという思いが大きかったのですが、「摂食障害のある人と見るのではなく口から食べて幸せに暮らしたいと願う人とみる」と言う先生の言葉に、ケア全ての自分の価値観が変わった気がします。利用者と介護者、ではなく家族や私自身、全ての人にとって大切なことだと思いました。</p>
<p>まだまだ勉強がたりないなど痛感いたしました</p>

<p>理不尽にも食止めにあっている人を正しい食事介助で助けたい思いが更に強まりました。</p>
<p>VFやVEの評価のみで、食事をすることを諦めさせられた方がたくさんいる事に驚いた。またいつかは食べられなくなつて命は終わるとの考え方を新たに学ぶ事が出来、必要な方に必要な援助が行えるように食事介助の技術・知識を高めていく事が必要だと改めて実感した。また攻めの介入をすることで大きく変化を出せる事を学び、より正しい知識をつけて、攻めの介入ができるようになりたいと感じた。</p>
<p>今まで、不良姿勢に対して「顎が上がったまま介助したら危ないよ」とか「姿勢が傾いたままだよ」とか、ダメだという指摘だけで終わっていましたが、具体的に何をどう直せばいいのかまで伝えられるようにしたいと思いました。思っているだけではなく、実行できることを見つけて行動しないと何も現状は変わらないと思いました。</p>
<p>ポジショニング、スプーン操作で食べる力を引き出して、本人のできる力を伸ばしていくということ</p>
<p>一日も早く評価をして、経口摂取できるように、病院のシステムを変えていく必要があると、痛感しました。</p>
<p>患者さんのためにもっとやれることがあるなあと思いました</p>
<p>実際の不良姿勢を体験して、今まで実践していた事が、いかに悪い姿勢であった事を実感した。また介助のスピードに関しても、ペースを崩さないように一定のスピードを保つ事を学んだ。</p>
<p>参加前は食事介護や姿勢の保持、圧抜き等の知識が殆ど無かったので大変勉強になりました。また、やはり口から食べられる事がどんなに幸せか、その方の尊厳を守るのかも改めて思い知らされました。</p>
<p>できてると思っていたけど、まだまだシリンジ注入やスプーン運びなど注意が必要だと気づかされた。</p>
<p>口から食べることの大切さを学ぶことができました。誤嚥をしやすい患者でも、諦めずに経口摂取にトライしていきたいと思えます。</p>
<p>実際に講義を受講をさせていただき、 “口から食べて幸せに暮らしたい人”として包括的に考える” “何もしないで判断するのではなく、やるべきことを総動員でやること” “知識を得る努力を、またそれを実践すること”という言葉が残りました。</p> <p>口から食べるためには、援助者が知識や技術を、極めて極めて…極めていかなければならないと、より実感をしました。</p>
<p>何度もセミナーに参加させていただいたが、技術の習得にまだまだ努力が必要であることを再認識しました。</p>
<p>本などで学んでいたことを自分が体験することで、理解度・納得度が高まりました。また、してはいけないこと、気をつけなければいけないことの理解を新たにしました。</p>
<p>・食事姿勢の重要性を再認識。一人では実施できないこと、他者を巻き込む必要性を再認識。経管栄養者にとって講義で触れられた「食べられなくなったら命が終わる」ことをいつどう当てはめるべきか、これまでもやもやしていた悩みが言語化されました。</p>
<p>食べられる姿勢(環境)をつくるのは医療者側の責任との小山先生のお言葉が一番心に残っています。私もその気持ちを持って患者様に対応していきます。</p>
<p>スクリーニングテストすら正しく出来ていなかったことに愕然としてしまいました。 ポジショニングの大切さやスプーンの使い方まで漠然とした知識で実施してきました。 これからは、自信を持って他職種とも連携をとっていきたいです</p>
<p>何度か参加させてもらっていますが、忘れていたことがあったり、まだ技術が身につけていないのだと感じました。GWでいろんな経験を持った研修者と意見を交わしながら演習できるのは、楽しくもあり勉強になりました。</p>

自分がベッドに実際寝てみて食事を摂取する事で 見やすさや食べにくさを感じられた。
技術不足を痛感しました。
ちょっとした工夫で、患者さんへ安全、安楽で、希望の持てる援助かわできると感じた
参加前は、経管栄養をしている方は仕方がないのだと思っていましたが、参加後は患者さんをサポートする側が仕方を工夫すれば改善出来るのだと思いました。

【セミナーで学んだことをどのように現場で活かしていきますか？】

事介助をする患者さんが多いため、正しいセッティングの方法や食事介助の方法を少しずつでも病棟スタッフに周知していきたい。
今回は実技の時間がたっぷり現場に持ち帰ってすぐ実践できそうです。ベットの角度付け方、ポジショニング等とともに丁寧に教えて頂きました(8グループ)。足底部からしっかりとしたポジショニング、車椅子での足の位置、バスタオルを使ったシーティングと全部明日から実践できます。良姿勢が誤嚥を防ぎ食べる支援につながるという流れも分かりました。私は特養勤務なので高齢者の方の食事介助が主ですが認知症の方にこれが美味しいと思える介助も考えて行きたいと思います。
自分の得意分野だけでなく、包括的に捉える事を学習しながら、身につけ、他職種と連携した、患者の援助をしていきたいです。嚥下評価、スクリーニングにも取り組みたいです。ポジショニングの際の、背ぬきや、圧を取るという技術をすぐに実践したいです。非常に実践的で、有意義なセミナーでした。ありがとうございます。
まずは食事姿勢が問題ないか、環境設定や声かけ、介助法をやってみようと思います。
食事介助を行う機会も多く、補助者さん(介護福祉士も含む)は食事介助の勉強会が行われていますが、看護師の中でも経験豊富なスタッフが、指導者として行っているような状態です。また、看護師においては食事介助の勉強会が新人研修として行われている程度で、それ以外では演習などで学習を行う機会は少ないのが現状です。言語聴覚士による嚥下障害のある患者の食事介助方法などは指導が入る為、それを参考に実践をしています。しかし、今回セミナーに参加をした為、病棟のスタッフレベルから食事介助の勉強会や実際にポジショニングを行って、患者役を体験してみたり正しい方法で食事介助を行うことと不良姿勢で介助をされる事の恐怖心の両方を学べるような機会を設けていきたいと思います。また、在宅復帰や在宅に準じた施設へと退院していく病棟の特徴もある為、入院中に改善した嚥下機能を退院後も維持できるようにする為に KT バランスチャートを用いた評価を看護サマリーに同封できるようなシステムの導入を徐々に行えるようにしていきたいと思います。
誤嚥性肺炎になると医師はすぐ食止めにしてしまいます。誤嚥性肺炎かどうか分からないうちにそうだろうという予測のもとに。まず正確な診断。アセスメントができる環境づくりをしていきたいと思います。
今回モデルで体験したことを忘れず、ポジショニング、視覚、嗅覚、スプーン操作を最小限の声かけで実践したいと思います。
姿勢を整えることを施設の職員さんや、在宅のご家族に伝えていきます。食べられないことで悩んでいるご家族は多いです。特にこの夏は暑くて食が落ち、やせたことを気にしておられるかたが多かった。
まずは父の介護に活かします。

KTバランスチャートの全体像を学ぶ事が出来たので、今まで意識していた姿勢・活動性視点から、心身面や食物形態・栄養の視点も包括的にアセスメントしながら、リハビリ介入をしていきたいと考えている。

またリハビリ介入時間は1対1で関われ本人の習慣や嗜好を引き出しやすいので、ここで得た情報を他職種と共有することで、食形態や食事環境に反映できると考えた。

咀嚼の必要のない物は奥へ、意識しているつもりでしたが、自分で思っているよりももう少し奥に入れる必要があると分かったので明日から意識して介助します。自力摂取している方の様子観察が疎かになっていたのも、足がしっかり床面に着いているか、肘はどうか、スプーンを持っていない方の手はどうなっているか等再確認しようと思います。栄養価アップの方法、補助食品追加にも限界を感じていたため、品数や量を増やさずにエネルギーやたんぱく質などを増やせる方法は取り入れたいと思います。

まずは、自分の技術上達、スタッフへの指導に活かしたいです

まずは出来る事から、車椅子のフットレストから足を降ろす、などを実施していく。

日々の関わりの中で生かして行きたいです

学んだ事を再度実践し、伝達していきたい。

まずは教えて頂いた通りに実践していきたいと思います。圧抜きは介護の時だけでなく、訪問歯科治療の際も有効だと思いましたので、次回の訪問時から早速行ってみようと思います。

一応リハビリ病院で食事は全員離床車椅子も個人使用のため、ある程度のたわみや歪みは補整されてます。ただ、幅だけは無理なので、姿勢崩れ予防。食事中の不必要な声かけ禁止。栄養科には半量で高カロリー食の工夫を伝えていきたい

食事の姿勢や介助方法など、具体的ですぐに実践できそうです。

現場…ということで、

私の場合は、家族に対する援助に活かしていきたいと思っています。

土曜日の講義から帰ってから、頬と頸部のマッサージをしたところ“気持ちいい”と瞬きをしてくれました。

日曜日は、ポジショニングを整え、マッサージを行った後に、口腔ケアを行いました。普段よりも嚥下が早くスムーズでした。

“ゼリーを食べる？”と聞くと、パチリと即答でしたので、ゼリーを口にしました。こちらも、いつもよりスムーズに嚥下が出来ました。

良い顔をしていました。

また面ですること、胸鎖乳突筋も、いつもより柔らかくなりました。

全身姿勢、頬頸部のマッサージ、ベッドの角度…そして、ゼリーの見せ方・すくい方、舌に置く位置、声かけ…など。

すべて丁寧に教えていただき、先生方と共に実践させていただきましたので、家庭でもひとつひとつ確認しながら行えました。上の項目と混合しますがあわせて変わったことは、基本の考え方を改めて知ったこと、ポジショニング、マッサージにより父の嚥下がスムーズになったと感じたこと、自分の中に“このポジショニング、マッサージで行なおう”という型が入った事で、もやもやした不安感が減ったこと。

“これで良いのか？”という不安感よりも、“どうしたら教わった様な良い姿勢に出来るか”という考えに重きを置く感覚に変わったことです。

顎の挙上は、絶対にいけないと分かっているが、どうしても挙上しがちでしたので、まずこの姿勢を変えていく事。毎日実践していくことが何より大事と今は思っています。

CN 同士で定期的に技術チェックをしていきます。
毎日実践していきます。また、私以外の介助者にも伝えたいと思います。
まずは週末家族介助で試していき、徐々に施設看護師の協力を働きかけたいと思います。
まず、在宅で関わる多職種の方にKTバランスチャートを活用することの重要性を発信していくように努力します。
忘れないうちに伝達研修を行い、情報の共有を図ります。また、KT バランスチャートは一目でわかりやすいので利用者の観察に継続して取り入れていきたいと思います。
姿勢調整の演習担当や看護補助員への食事介助の講義などを予定しているので、演習を交え伝えていきたいと思っています。
クッションやバスタオルを有効に使い、安定した姿勢調整をしたいと思いました。
速9月に食事介助の研修会を開催するので、今回教えていただいたスプーンテクニックと、姿勢調整について演習交えて新人スタッフに指導します。セミナー後日々の食事介助で肘の安定を意識して姿勢セッティングしています。
日々の臨床。食事介助場面
患者様の食事の時のポジショニングに気をつけてセミナーで覚えた介助方法を実践していこうと思います。口を開いてくれない患者様を介助する時のコツも教えていただいたので、実践していきます。同僚にも、今回のセミナーの内容等を伝えていこうと思います。

【その他、感想】

8グループの担当の方にシリンジの介助方法も教えて頂き本当にありがたかったです。ありがとうございました。グループは看護職の方ばかりでしたがうちの施設の看護師もココで勉強してほしいと思いました。
グループ編成に気遣いがあり、初めての参加でしたが、グループ内での会話が進んで、楽しくセミナーを受けられました。今後の仕事の励みになりました。
受講料が高いのに個人で準備や持参するものが多く、受講者の負担が大きいと正直なところ思っていました。でも受講して必要な理由がわかりました。限られた時間で十分な理解までは至らなかったのが残念です。(私個人のスキルの低さが大きく影響していると思います)実技時間が、もう少し余裕があるとわかりやすいのではないかと感じました。いろいろ申し上げて申し訳ありません。まずは今日学んだことを、記憶の薄れぬ内に現場でやってみようと思います。ありがとうございました。
今回セミナーに参加して、改めて口から食事をとることが、その人らしく生きる事に繋がる事が学べました。今後も、摂食嚥下障害の分野に携わっていきたくて考えている為、今日のこの学びを元にまずはできるところから自部署少しづつ始め、それを他部署へと広げられるよう努力を積み重ねていきたいと思っています。
患者さんの状態を正確に理解していないと攻める管理はできないと実感しました。そのためにもしっかりアセスメントできる能力が必要だと思いました。実習はまず、アドバイザーの先生に正しい見本を見せてもらってからできたら良かったなと思いました。
ケアワーカー中心のグループで、講習の内容も実践に即していて、先生の説明も丁寧でわかりやすかったです。ありがとうございました。
今回のセミナーは2回目ですが、振り返る、確認するという意味でもまた時間をおいて参加させていただきたいと思います。チャートは現在、職場で活用中です。ケアマネジャーさんにも好評です。

<p>大変有意義でした！有難うございました。食事の介助方法もさることながら、ベッドや車椅子上で崩れない姿勢を作る方法や、顔・首のマッサージなど、今すぐ役立つ内容でした。早速父に実施します。</p>
<p>歯科医師等、当院の委員会では関わる事が出来ない職種の先生からも教えてもらう事が出来、とても勉強になりました。私も人に教えられるレベルになれるまで、技術・知識を高めていきたいです。ありがとうございました。</p>
<p>今回、実技セミナーに初めて参加しました。実技セミナーでは、「どこに問題があるのか」「具体的に何をどうすればいいのか」をその場で直接知ることができ、実践に結びつけることができると思います。又、参加者同士での繋がりができたもの大きな収穫です。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。</p>
<p>実践があり楽しかったです</p>
<p>もっと色々な事を学びたかったので、半日の実習がアツと言う間でした。また限られた時間の中だったので、先生方も慌ただしく最低限のポイントを教えて頂いた感じがします。もし可能であれば、1日コース等の余裕のある時間の中で更に多くの事を学べたらと思います。今回は有難うございました。また9月の東京でのセミナーも参加させて頂きます。</p>
<p>食事介助は奥が深くて面白い反面、患者達の食の権利を奪う可能性があり怖い。他院の医師によるVF待ちではなく看護師・ST・栄養科で患者の食事を話したい。小山先生に、当院の食事状況をバツサリ私も含めて切ってもらいたいとても分かりやすい講義でした。ありがとうございました。</p>
<p>KTSM の活動・考え方・技術に関して、父に携わってくださっている様々な職種の在宅スタッフさん、また私自身の福祉職仲間もとても興味を持っています。講義に参加させていただき、“多職種連携をして、総動員で取り組む”という仕組みを地域に広げたいと感じました。今自分に出来ることは、父のことをきちんと取り組むことと、身近な方へのKTSMの広報(…という大げさですが)だと思っています。また、家族会の皆さんにも直接お会い出来たことも、皆さんの熱量を感じたり、お互いの気持ちを話せたりして、力を貰えました。講義に参加させていただき、本当に、ありがとうございました。</p>
<p>丁寧な指導をしていただきありがとうございました。</p>
<p>昨夜、ショートステイから帰ってきた母に、完璧にはできませんでしたが、講習で学んだことを実践したところ、母が一度もむせずに食事を食べることができました。一度もむせなかったのは久しぶりで、とても嬉しかったです。一方で、今朝は母の状態が悪くなく(覚醒せず)、食事が進みませんでしたが、今後も食事介助技術を学び続けたいと思います。同時に、食事の際の被介護者の状態をいかに整えることができるか(例えば、覚醒状態を食事時間に保てるように)を学べたらと思っています。</p>
<p>今回は、今までの中で一番充実した実習だったように思います。指導して下さった佐藤様にも感謝申し上げます。不良姿勢も体験できたのが良かったです。</p>
<p>職種ごとに分かれてのグループワークが、ものすごく刺激になりました。そして、山下さんの的確な指導を受けて、すごくやる気が起きました。食事の姿勢が大事であることは、わかっていたのですが、正しくできていませんでした。早速、施設の利用者様の姿勢の見直しをしています。スクリーニングテストも現在私の仕事になっているので、次回からは正しく行なえるように練習しておきたいと思います。今回勉強させていただきましたが、おぼえきれいなかったり、忘れてしまうこともあると思うので、このような研修の機会があったら是非参加したいと思います。本当にどうもありがとうございました。</p>
<p>知識も大事ですが、様々なケースに対応できる看護技術を学べる場が少ないと感じており、KTSM セミナーは具体的なノウハウを学べるので、また参加したいと思います。ありがとうございました。</p>

実技の時間が慌ただしかったので、もっとゆっくり時間を取って学びたかった

今回、きむさんにとても詳しく教えていただきました。とても勉強になりました。ありがとうございました。患者家族の方と一緒にセミナーを受講したのは初めてでした。医療者としてもっと頑張らないといけないと感じさせられました。

とても刺激となったので、また参加したい。嚥下障害患者を救う希望が持てました。

少人数グループに分かれて、学習したので、講師の方に質問しやすく良かったです。ありがとうございました。

【グループ写真】





【集合写真】



口から食べる幸せの輪を広げましょう
みなさま ありがとうございます

